栃木県中学校長会報

平成15年9月12日　発行
栃木県中学校長会広報部　第99号

〔役員所感〕

会長あいさつ

栃木県中学校長会長
宇都宮市立陽北中学校
校長　柿　崎　龍　夫

完全学校週５日制のもと、新学習指導要領が全面実施となって２年目を迎えました。

新たな船出をしてまもなく、学力問題という横風が吹きはじめ、中学校丸もやや不安定な航海になっているという感は否めないところです。

この学力低下論への応答は、教育課程の編成、実施、評価をもって応えるほかにないわけですが、評価が絶対評価に変わったことから、これまでの学習や評価の方法を根本的に変革することが求められております。一時間の授業の形態を変えたり、教材も一律にしない、授業中の場所の移動や少人数指導等々、多様な選択が考えられています。

平成14年度全日本中学校長会のアンケート調査の一つ「未来社会を展望した学校の在り方」の調査結果によると、公立中学校長のほぼ二人に一人が「学力向上」で自校の特色化を図りたいと考え、また、８割強が自分の構想を具体化するために人的な面で補強が必要だと考えていることがわかります。

こういった学力問題を考える時、このことだけが一人歩きをし、本質を見失うということのないように、学習指導要領が目指すところ、総則第１の「生きる力をはぐくむ、個性を生かす、基礎的、基本的な内容の確実な定着と自ら学び自ら考える力の育成」を常に念頭におきながら進めていく必要があると思います。

今、教育を取り巻く喫緊の課題は学力問題一つにとどまらず、教職員の資質、能力の向上、開かれた学校づくり、学校評議員制度の定着、危機管理、生徒指導、２学期制、学校選択制の導入等々、まさに山積しております。そして、この夏には、中学生が関係する凶悪な事件が続き、社会を大きく揺るがしました。

このような時にこそ、一人一人の校長が「先見性と確かな分析力」により、強力なリーダーシップを発揮するとともに、本校長会の８専門部会を中心とする組織をフルに活用し、会員同士が常に情報交換を密に行い、互いに研鑽を積みながら一枚岩となり、日々の教育実践に向けて邁進していかなければならないと考えております。

21世紀は心の教育を

栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立一条中学校
校長　谷　島　利　康

現代文明はここ100年余りの間に、悠久の歳月をかけて地球が育んできた資源やエネルギーを消費しつつ発展してきた。「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の経済社会活動は我々に多くの恩恵をもたらし、物はたいへん豊かになり、生活は便利になった。

今や人は高速で移動し、遠距離にいる人と簡単に会話を楽しんでいる。昔の人からはとても想像できないほどの、正に夢のような社会が実現した。しかも社会の発展はとどまるところを知らず、ますますスピードをあげて変化し続けている。

一方、内側に目を向けてみると、心はどうであろうか。我々は、物が豊かになれば心も豊かになると信じていた。だが、そうではなかった。心の歩みは遅く、物の進歩発展に見合うだけの心の進歩ができていないのである。利己主義が蔓延し思いやりに欠ける、道徳性が低下し社会規範が失われつつある、自己抑制の効かない青少年による凶悪犯罪が増えているなど、人間性が失われていくように思えてならない。

豊かで便利になる事はよいことであるが、経済理念が最優先され効率を重視する社会が、次第に豊かな人間性を失い、人心の荒廃を生むということになれば、憂慮すべき事態である。

難しい事からではない。お世話になったら感謝する、互いに助け合う、命あるものに対しては慈しみ憐れむ、自分の行いを振り返り反省する、人智を超えた崇高なものに畏敬の念を抱くなど、日常生活の中で実行していけばよいと思う。特に大人がまず自ら実行し、青少年に範を示す事が大事である。学校と家庭・地域社会が同じ考え方に立って心の教育をしていかなくてはならない時代がきている。

21世紀を展望した我が国の教育の在り方について、文科省より「ゆとりの中で生きる力を育成する」という方向が打ち出され各学校で進められているところである。上述したことから考えると、「自らを律しつつ他人と協調し、他を思いやる心や感動する心など豊かな人間性を培う心の教育」を是非とも強化していかなければならないと思う。

〔役員所感〕

「ささやかな幸せ」から

栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立旭中学校
校長　小　林　幸　正

最近、感銘を受けた文に出会ったので紹介します。本校ＰＴＡ紙の保護者による巻頭言です。

『たのしみは／妻子睦まじく／うち集い／頭（かしら）ならべて／物を食うとき

橘曙覧（たちばなのあけみ）の歌である。彼は、大変な貧乏暮らしを少しも苦にせず、生活の中にささやかな喜びを見出した。

ふり返ってみると、私達は恵まれた現代の日本にいながら、なんと不満の多い日々を送っていることだろうか。子供たちと過ごす日常を、あたり前のこととしか思えず、慌ただしさに流されてはいないだろうか。ほんの少し気持ちを切り替え、深呼吸してから子供と向き合ってみよう。どんな小さなことでもいいから、子供の目を見て話してみよう。かけがえのないそのひとときをいとおしいと感じる心があれば、もっとおだやかな気持ちで、毎日を過ごせることだろう。（中略）

ささやかななかに見出す幸せ。それを忘れずに、毎日を大切に生きていたいものである。』

いま学校は、教育改革の大きな渦の中にあり、次々と出される施策に揺さぶられながら、生徒の［生きる力］育成のため、日々教育活動に取り組んでいます。そのためには、基本的な生活習慣の定着が基盤となります。

しかし、このところ急激に表面化しつつある価値観の多様化は、その基盤を軽視するような傾向を生み、学校教育の軸を揺るがしています。

言うまでもなく、学校教育は、生徒や保護者の学校に対する信頼が前提です。

まず大人が、日常生活で「本当の幸せや心豊かさとは何か」を感じ取り、それを子どもに示していくことの大切さが、前述の巻頭言のなかでよく表されていると思います。

私たちは、このような保護者の存在を励みとし、力を合わせながら、心身ともに健全な人間育成に取り組みたいものです。

〔退任に当たって〕

栃木県中学校長会副会長
前宇都宮市立宮の原中学校
校長　堀　江　昌　子

今年の大河ドラマ「宮本武蔵」も佳境に入り、佐々木小次郎との巌流島での決闘シーンが近づき、武蔵の人間的成長と共に楽しみである。史実によると、武蔵は肥後の岩戸山に独り死の直前まで籠り「五輪書」を書いた。洞窟の中は二十畳程もあり、天井迄も数メートル、意外な広がりがある。

さて、鍛練といえばこの一書を思い起す人が多い。鍛練に鍛練を積み重ねたその一生を思うからだ。「千日の稽古を鍛とし、萬日の稽古を練とす」と【水の巻】の最後に述べている。武蔵はその生涯に六十余度の真剣勝負を行い、一度も負けることはなかった。この人にして初めて言えた言葉であろう。「今日は昨日の我に勝ち、明日は下手に勝ち、後は上手に勝つと思い」続けた鍛練が、武蔵を剣聖にした最大のものだったといえよう。

我々凡人は、武蔵のようにはいかないまでも、誰でもができる平凡なことを、一点の疑いも持たず、毎日、黙々と実践するところに偉大さがあるといえる。そして、一番大事なのは「心の鍛練」なのではないだろうか。「楽観主義は意志の所産である」というフランスの哲学者アランの言葉を待つ迄もなく、人の心は放っておくと、不平、不満、不安、嫉妬等に陥るといわれている。

しかし、見事に人生を生きた先人は例外なく、「物事を前向きに考える・感謝の心を忘れない・愚痴をこぼさない・明るく謙虚である。」という方向に自分の心を鍛え続けた人達でもある。

私は、皆様に支えられ、三十八年という教職を勤務出来た幸せを現在実感しています。中学校長として多くの緊要する教育課題に直面され、奮闘されている先生方を思う時、確固たる自信の基に学校経営を推進してと大きなエールを送りたい心境です。いろいろとお世話になりました。皆様のご活躍とご健勝を祈念申上げ、退会のご挨拶といたします。

〔関ブロ・群馬大会の報告〕

事務局長　犬　塚　恒　士（宇・泉が丘中）

関東甲信越地区中学校長会第47回総会・第55回研究協議会群馬大会は、平成15年６月11日㈬から13日㈮までの３日間の日程で群馬県伊香保町で開催され、本県からも多数の会員の参加協力を得ることができた。以下、群馬大会についてその概要を記載する。

１　定例理事会・総会（６月11日）

○　理事会には本県より次の役員が出席

柿崎会長（15年度理事）、谷島副会長（14年度理事）、小林副会長（14年度監事）なお、事務局長はオブザーバーとして出席。

○　総会には、本県より役員の他、６名の代議員が出席。

○　主な審議内容は次の通りで総会において承認

・会務関係－14年度会務・決算報告、15年度事業計画案及び予算案審議、15年度役員案　等

・研究協議会関係－群馬大会宣言・決議案、埼玉大会概要、山梨大会概要、全日中茨城大会　等

・報告・連絡－総会・研究協議会の運営、情報交換（各都県の概況）

２　研究協議会（６月12日～13日）

○　研究協議会は、「〔生きる力〕をはぐくみ、新しい時代を拓く心を育てる中学校教育」を協議題に、開会行事、文部科学省説明、全体会協議、分科会協議、記念講演、閉会行事と２日間にわたって展開された。

○　文部科学省説明では、特に「教育の構造改革」を中心に、教育基本法と教育振興計画、三位一体改革等について説明。

○　全体会協議では、「特色ある教育活動を通し、生徒一人一人に確かな学力と豊かな人間性を培う中学校教育の推進」を視点に群馬県が提案。

○　分科会では、第１から第９まで９つの分科会で提案にもとづき研究協議が展開された。特に、第８分科会「地域社会」の提案は本県担当。「学校評議員制度の効果的な活用をめざして」を視点に、足利地区校長会の研究の取り組みを、高橋知俊校長（足・三中）が提案、司会を石井政男校長（足・富田中）が行った。今日的な課題に対して具体的な事例を基にした提案は、各学校の抱える課題に示唆を与え参加者の好評を得たことを報告し、提案者・司会者をはじめとして足利市校長会の努力に感謝申し上げます。

〔専門部の活動計画〕

◈　総　務　部

部長　高　橋　勝　也（宇・陽西中）

平成15年４月22日、県教育会館において第１回総務部会を開催し、役員選出並びに年間行事内容・計画について協議を行った。

１　平成15年度役員

部　長　高　橋　勝　也（宇・陽西中）
副部長　江　面　一　雄（河・古里中）
〃　　大　木　洋　三（下・栃木東中）

２　事業内容

(1)　県中学校長会要望書案の策定
(2)　行政当局をはじめ県内各関係機関への要望活動の推進
(3)　県中学校長会の次年度の運営方針、活動の重点の検討と立案

３　事業計画

(1)　義務教育振興協議会要望書起草委員会への意見集約
(2)　第二回総務部会（７月14日）～県中学校長会要望書案の策定
(3)　県教委事務局等への要望活動
(4)　知事部局、県議会関係者等への要望活動
(5)　各地区の関係機関への要望活動
(6)　第三回総務部会（９月25日）～平成16年度の運営方針・活動の重点等案の策定
(7)　第四回総務部会（１月）～平成16年度の運営方針・活動の重点等案の決定
(8)　理事・協議員会に平成16年度の運営方針・活動の重点等提案

◈　調　査　部

部長　篠　原　拓　夫（宇・宮の原中）

１　役員の選出と事業計画の作成

平成15年４月22日㈫、栃木県教育会館において調査部会を開催し、本年度の組織及び事業計画を協議し、次のように決定した。

(1)　役　員

部　長　篠　原　拓　夫（宇・宮の原中）
副部長　宗　像　　茂（河・河内中）
〃　　永　森　正　俊（南那・小川中）

(2)　事業計画

ア　全日中教育情報部が全国で実施する「中学校教育に関する調査」に応じ、本県の状況を

調査し報告する。

イ　各学校で関心の高い教育課題について全県的に調査を行い、資料を提供する。

ウ　他の都道府県中学校長会及び各教育関係団体との連携・協力並びに資料・情報の交換等を行う。

エ　各種調査結果及び資料収集、情報の提供や配布等を実施する。

2　「中学校教育に関する調査」

本調査は、全日本中学校長会教育情報部が全国で実施するもので、本年度は下記のような項目で調査し回答した。

なお、回答にあたっては県教育委員会に多大な協力を得たものである。

(1)　平成15年度の栃木県の教育費　(2)　平成15年度の公立中学校学級数別教員定数　(3)　特別配当教諭の制度　(4)　教員の待遇、退職　等

◈　研　修　部

部長　犬　塚　恒　士（宇・泉が丘中）

1　平成15年度役員

部　長　犬　塚　恒　士（宇・泉が丘中）

副部長　谷田貝　　勝（小・豊田中）

〃　　野　中　一　男（栃・寺尾中）

2　平成15年度活動計画

(1)　研究テーマ

豊かな未来社会を創るたくましい日本人を育てる中学校教育

～生徒一人一人を生かした特色ある教育活動の展開～

(2)　主な活動

研究大会の開催、研究収録の作成、研究課題の検討をおもな事業として活動を展開

ア　第25回栃木県中学校長会研究大会の開催

○期　日　平成15年9月12日㈮

○会　場　栃木県子ども総合科学館

○内　容

・午前①　－　開会行事

・午前②　－　全体会

上都賀地区、塩谷地区、那須地区による研究発表

・午後①　－　分科会協議

3分科会に分かれ研究協議

・午後②　－　講　演

中村正之氏（常盤大学助教授）による講演

イ　研究集録の作成

・第25回研究大会の概要

・各地区の研究概要

ウ　研究課題の検討

次年度の研究テーマの検討・策定

◈　事　業　部

部長　中　山　一　郎（宇・国本中）

平成15年4月22日㈫、教育会館において事業部会を開き、前年度までの事業の継承の必要性を確認し、本年度の組織及び事業計画を次のように決定した。

1　役　員

部　長　中　山　一　郎（宇・国本中）

副部長　神　長　利　光（河・上河内町）

〃　　阿　部　　茂（安・田沼・西中）

2　事業計画

研修会の開催「退職後の生活設計について」

(1)　日　時　平成15年12月11日㈭

13:00～16:00

(2)　会　場　栃木県教育会館　3階大会議室

(3)　参加者　栃木県中学校長会会員（希望者）

(4)　内　容

ア　あいさつ

・栃木県中学校長会会長

・栃木県教育委員会福利課長

イ　講　話

講師（予定）

栃木県教育委員会福利課　担当職員

(ｱ)　医療保険について

・退職後の医療について

・任意継続組合員制度について

・継続医療制度について

(ｲ)　退職手当について

・退職手当について

・退職手当の算出について

・各種の税について

(ｳ)　年金制度について

・退職共済年金の内容と仕組みについて

・退職共済年金の支給について

(ｴ)　教育福祉振興退職者部会について

・退職者部会について

・退職者部会の加入の仕方について

(ｵ)　その他

ウ　質疑応答

◈　広　報　部

部長　下　司　恵　子（宇・瑞穂野中）

平成15年4月22日㈫に、下記のように新役員を決定し、次いで平成15年7月3日㈭教育会館にて、第2回広報部会を開催した。協議の結果、本年度の組織および事業計画を次のように構想した。

1　平成15年度の役員

部　長　下　司　恵　子（宇・瑞穂野中）

副部長　大　塚　正　則（河・上三川中）

〃　　秋　元　和　夫（小・小山中）

2　今年度の会報発行構想

(1)　発行回数は年2回とする。

・第99号、第100号とする。内容はこれまでとほぼ同じ。第100号は記念号とする。

(2)　発行予定日

・第99号　　平成15年9月初旬

・第100号　　平成16年2月中旬

(3)　各号の主な内容について

①　第99号

・役員所感

・各専門部の活動計画

・退任に当たって

・新任校長の一言

・私の朝会訓話

・関東中学校長研究協議会群馬大会報告

②　第100号記念号

・会報100号に寄せて

・役員所感

・全日本中学校長研究協議会茨城大会報告

・研究学校発表概要

・各専門部活動報告

・海外研修視察記

◈　進路対策部

部長　影　山　房　與（河・明治中）

平成15年4月22日㈫栃木県教育会館において第1回の部会を開催し、本年度の組織及び事業計画について協議し、次のように決定した。

1　平成15年度役員

部　長　影　山　房　與（河・明治中）

副部長　大　橋　哲　夫（栃・東陽中）

〃　　久保田　久　男（南・下江川中）

2　本年度の事業計画

研究テーマ「中学校進路指導の適正な推進と高校教育改革の提言」

第1回研修会

ア　期　日　平成15年7月8日㈫

イ　場　所　宇都宮市立清原中学校

ウ　内　容

・今年度の事業計画の確認

・昨年度の研修のまとめの確認と今後の課題について

・県立高校及び私立高校入学者選抜に関すること

・その他情報交換

第2回研修会

ア　期　日　平成15年10月21日㈫

イ　場　所　栃木県教育会館

ウ　内　容

・県内全中学校に依頼した私立高校及び県立高校入学者選抜に関するアンケート調査結果を部会でまとめ、検討し、要望事項として整理する。

・その他

第3回研修会

ア　期　日　未　定

イ　場　所　栃木県教育会館

ウ　内　容

・県立高校入学者選抜に関するまとめをもとに、県教委高校教育課に要望する。

・その他情報交換

◈　生徒指導部

部長　酒　井　一　行（下・石橋中）

平成15年4月22日㈫栃木県教育会館において第1回の部会を開催し、本年度の組織及び事業計画について協議した。

その結果、ほぼこれまでの事業内容を継続することになり、概ね次のように決定した。

1　役　員

部　長　酒　井　一　行（下・石橋中）

副部長　赤　城　秀　明（宇・鬼怒中）

〃　　松　本　敏　夫（足・毛野中）

2　研修計画

(1)　平成15年度研修課題

・いじめ、不登校、暴力行為など、今日的な課題への適切な生徒指導体制の確立

・性に関する指導、薬物乱用防止教育等の一層の推進

(2)　第2回部会研修会

ア　期　日　平成15年10月17日㈮

イ　場　所　栃木県教育会館　小会議室

(3)　研究の方向

研究課題について、各校で取り組んでいる研

究実践を発表し合い、課題解決に役立てる。

主な話し合い事例として次のようなものが考えられる。

- 課題解決のための校内指導体制または地域との連携の具体例
- 各種専門機関との連携
- 「スクールカウンセラー」または「心の教室相談員」等との連携
- 生徒指導に関する特色ある教育活動の実践事例

(4) その他

- 平成16年度版「生徒手帳」の編集

◆ 修学旅行部

部長　後　藤　　明（宇・豊郷中）

1　役　員

部　長	後　藤　　明	（宇・豊郷中）
次　長	久　保　　徹	（宇・雀宮中）
副部長	小　堀　悠　次	（芳・逆川中）
〃	神　山　　学	（安・葛生中）

2　事業計画

4月22日	第1回県修学旅行部会（教育会館） 役員選出、事業計画、関東修学旅行委員会役員選出
5月30日	関東修学旅行委員会総会並びに第1回研究協議会（さいたま市）
6月10日	第2回県修学旅行部会（教育会館） 列車申し込み、実施報告、研究発表会の打合せ
7月10日	平成17年度修学旅行輸送申込み及び修学旅行実施状況報告書のとりまとめ
9月19日	輸送計画調整（東京）
10月7日	茨城県との輸送計画調整会議（茨城県）
10月17日	研究協議及び輸送計画決定
10月27日	第3回県修学旅行部会（プラザ・イン・くろかみ）研究発表会の打合せ
11月14日	第39回関東地区公立中学校修学旅行研究発表会（プラザ・イン・くろかみ） 発表校　宇・国本中　栃・栃木西中
11月28日	「平成17年度修学旅行新幹線輸送計画書」配布
1月	「関西の旅」の申込み
2月5日	役員代表者会議（宇都宮） 年間事業計画反省と新年度対策検討
2月21日	新年度事業計画案協議

〔新任校長の一言〕

足利市立北中学校長　高　橋　良　男

多くの課題がめまぐるしく頭の中をかけめぐっている。こんな状況が今の自分である。

本校では9年目。特殊学級担任から教務、教頭を経て今年度昇格となった。様々な面で生徒の事情やら、地域の事情やらを理解しているので、これは有難いと感じている。この条件を生かして職員とともに、「生徒にとって楽しい学校」づくりをすすめたいと意気込んではいるが…。

退職された前校長は、理論的に素晴らしい教育理念を構築された。共にこの構想をすすめてきた自分としては、まさに実践段階を任されたのだと思っている。「基本的な考え方」「めざす教師像」「めざす生徒像」「めざす学校像」を掲げ、本年度は「めざす保護者像」を策定する予定だ。「基本的な考え方」では、「子どもたちに寄り添い、一人一人の違いを受け入れ正しく理解し、信頼関係づくりに努めながら、感化を基盤とし、よりよく生きようとする意欲と実力を育てる。」と提起している。「感化」の重みが、自分にとって第1の課題となっている。「感化」が「信頼」に裏づけされ、「信頼」を得るために職員の心をどう耕すか。

「教育目標に向かう流れをつくる」が第2の課題。子どもも教師も保護者も地域もこの方向を目指すことが大切だという命題だ。1つの方法として「学習のめあて」を2年がかりで策定した。子どもが学習をすすめるための指針を具体面も加えて示してある。教科、総合的な学習、道徳、特別活動の4分野から成っている。子どもの自己評価と教師の評価のずれ等も意識しながら「学校評価」に組み込んでいる。この結果を、生徒、教師、保護者がそれぞれの立場で検討を加え、話し合える場が生まれればと考えている。この動きが「流れをつくる」きっかけとして定着させたいと考えている。

次の課題は、子ども達の「心」の問題である。自分を有用である。自信があるという子どもになってほしいという思いがある。子どもを単に認めるだけですむとは思えないが、職員の意識も変える必要があろうし、行事での生徒の関わり方、学級内での存在感、いじめや不登校生徒へのケアなど山積した問題は多いが、簡単でわかりやすい点から取り組んでいこうかと思っている。

学習指導要領のねらいを深く考えながら重圧感をもっている。自分なりの方向で実践することしか解決できないと考えている自分であるが…。

南那須町立下江川中学校　久保田　久　男

無事。この言葉は、なに事も無い、という意味で使われるのが常である。が、郷土の文豪山本有三氏は、作品中の和尚に、事をおこさないひとになれ、と言わせている。和尚の無事からすれば、公私長幼男女にかかわらず、なんと有事のことの多い昨今、内外だろう。

朔太郎の娘葉子は、父の転居のたびに、小学校を3回かわった。孟母三遷ではない。彼女はその度に先生の言葉に傷付き、家族に傷付き、望みを失っていった。詩人朔太郎ではなく、求めたのは、必要なのは父朔太郎であった。救いは朔太郎を訪ねる三好達治だったが、その達治も、その後の私生活は、朔太郎同様にひどかった。

いつの世も、子はオトナにまもられ、また、傷付けられてオトナになる。歴史はくり返し子育てもくり返す。大学出がふえてもよくならない。なぜ。

我以外皆師などと改めて口にするまでもなく、オトナはすべて先生見本お手本常識。環境はひとをつくり、ひとは環境をつくる。不登校ひきこもりパラサイト、万引き凶悪犯性犯罪はふえ、オトナウラ文化が○○主義の物差しでまかりとおり、いたいけな子ども達の神経と感覚の中に、土足で踏み込む。恥も、礼節もない。我が子でなければよいのか。オ父サン一歩出ればオ客サンとまで言われる多事多難の世の中だ。

井戸端が消え、職住分離がムラ中に進み、人々の直接の接点がへり、携帯とＰＣが普及。密室の中で悩めるオトナが、切れ切れに悩んでいる。万しょんは、都市部だけではない。新しい言葉や金よりも、忘れ捨てさられた伝統文化を、急ぎ取りもどさねばなるまい。してみれば、三あいはすばらしい。

組織の大小は、個の質量存在価値をかえ、連帯協調忍耐の要求度もかえる。外から色合いがそえられ教員の悩みも病気もふえた。そこで止まればいい。心身の健康存命を、願わずにはいられない。

使う前より美しくが地球規模の環境問題となり、時は科学より哲学、新人間復活の時代、恕の時代へと進み、報酬は、社会的分業と公共福祉への代償の意味をもち、その色を濃くするかも知れない。

人生はいつも喜びよりも悲しみや愁いが多いのだが、今までもこれからもそうだと悲観ばかりせず、果報は寝て待て塞翁が馬人生棚ボタと我を慰め、さむいねああさむいね死にたくはないね、と心平蛙が言えば、ぬいてもぬいても草の執着をぬくと山頭火。僕はひとり、脚下照顧、温故知新を、呟いている。

宇都宮市立城山中学校長　久　保　　徹

今春、初任から6年間お世話になった本校に20年ぶりに戻ってきました。その当時とほとんど変わらない緑豊かな風景にホッとした反面、これから始まる未知の世界に不安を抱えながらの第一歩でした。

教育改革2年目の本年は、昨年度から始められた新しい課題へのより高いレベルでの対応や、新規事業への準備等、各学校で取り組んでいかねばならない多くのことがあります。それらを考えるにつけ、「1つ1つを着実に行っていくこと」の大切さを認識し、日々努力しているところであります。

さて、年度当初、学校を元気にすることを念頭に置きながら、学校を地域に開くこと、職員の学校経営参画意識の醸成等意識を改革すること、生徒が基礎基本をしっかりと身につけられることを柱として学校経営に取り組むことを職員に述べ、一人一人が楽しく居がいのある学校を目指すべく協力をお願いしました。

開かれた学校づくりについては、地域の人々が立ち寄っていただける学校を理想として掲げ、意識的に学校から外へ出ていったり、学校情報を校長室だより等で発信したりすることを心掛けています。そして学校評議員会の開催、地域行事への積極的な参加、学校独自でのサポートチームの実施や保護者や地域の人々への授業開放などを行ってきました。また「校長と保護者で話し合う会」を新たに設けて、ＰＴＡとの意見交換の場も設けています。

職員の意識改革にむけては、校内研修等の充実や教育目標や学校行事の見直し等についての意見提出を行っていくことにしています。

基礎基本の習得については、町の先生（特に大学生の活用）の協力による自主学習活動の実施、部活動の外部指導者の導入、非常勤講師とのＴＴや習熟度別学習の充実を進めていくことにしています。

しかし、もう1つ大きな課題として、評価の問題があり、外部評価の導入を含め研究をさらに進めていき、適切な評価が行えるようにしていきたいと考えています。

また、次年度より、2学期制や民間人校長制度が導入されるなど新たな展開もあり、新任と甘えず精一杯、学校教育のため、生徒のためにがんばっていきたいと考えております。

ー新任校長は迷わないー

上三川町立本郷中学校長　戸　倉　文　夫

8000メートルの上空から暮れ行く地上を海岸線沿いに眺める。上空は残照でまだ明るいが、もう地上はとっぷりと日が暮れていて、闇の中、時折町並みが宝石をちりばめたように現れる。はるか下のほうで花火が打ち上げられて小さなネオンのように見えるのは、浜松市あたりだろうか？

８月になり、大会の応援も一段落したところで、毎年恒例の海外研修時代の仲間に会いに行った。

大阪からの帰りの機の中で、「９月からの学校運営をどのようにしていこうか。１学期に理念と方針は発表したが、まだ中味が伴っていないし、夏休み中にきちんとしなければ…。」新米校長は休暇中も迷っている。

４月に新任校長として、今まで教務、教頭として６年間すごしてきた本校に今度は校長として着任した。

今年度は生徒数282名、じわじわと少子化が進んでいるが、逆に学校への要望や意見が少しずつ増えてきている中、校長として特色ある学校をどう進め、どのように「確かな学力」を身につけさせ、またどう「豊かな心」を育んだらよいのか、検討し、職員に伝えるとともに、学校通信などで保護者・地域の方々に発信してきた。

確かな学力については、東京学芸大学の児島邦宏氏の学力を層としてとらえる方法をもとに、第１層をどう耕すか学年を中心として１学期間取り組んでいただいた。また今後学校全体としてどの方法がベストかをミドルリーダーである主任会を中心に検討を続けていきたい。

豊かな心については、「栃木県一礼儀正しい学校をめざそう」と生徒、職員、保護者に呼びかけてはいるが、まだどう具体的に実践していくか定かではない。しかし幸いと言うか私自身20年来茶道の世界に身を置かせて頂いているので、この茶道の精神をもとに取り組みたいと考えている。飛行機が好きで出発までの時間、空港でコーヒーを飲みながらゆっくり過ごすのが好きだが、先日大阪空港で見た光景は、現在の日本の親の教育力のなさをまざまざと見せ付けられたものであった。客がいるのに子供たちが大騒ぎしても注意一つしない親達。こちらのイスに子供がぶつかってきても「すみません。」の一言もない母親。正に日本の親の現状。

もう新任校長も黙ってはいられない。子供たちに何を、どう教育すべきかすぐに手を打たねば日本はこのままではだめになってしまう。一刻も早く、他の人のことを考えて行動できる人間をたくさん育てていき、温かい人間味のあふれる国にしなければ。

もう新任校長は迷っていはいられない。

〔私の朝会訓話〕

目標は“明快”

市貝町立市貝中学校長　糸　井　　洋

話の上手な人を羨ましく思うときがたびたびあります。依頼を受けたとはいえ、このような原稿を書くことには、正直おこがましさを感じています。

ところで、本校では、表彰などとの抱き合わせという形で、年間約15回の校長訓話があります。私なりに心がけていることの中から、特にということで、３点述べさせていただきます。

その１つは、何をテーマに話をするかという点です。話の焦点がぼけないようにテーマを明確に設定するということです。一人一人の生徒に訴えたいこと、学校全体の士気や生活の習慣・態度にかかわることなど、できるだけ高い見地からテーマを設定し、筋書きを構成します。生徒の立場で考えたとき、「解った！よーし！」そういう気持ちになれるということが重要であると思うからです。

２つ目は、生徒の納得感をいかに高められるかという点です。人の生き方や身近な体験、あるいは、詩や名言などから材料を探すようにしていますが、最も神経を使うところです。生徒の心に残るインパクトの強い講話でありたいと考えるからです。

３つ目は、短時間で話をするということです。私の場合も３～５分で考えています。諄(くど)い話よりも、明快な話の方が生徒にとって解りやすいのは明白です。たまには、「皆さんの生活の状況がいいので、今朝はしゃべりたいことはありません。」で終了したり、「オカリナ１曲吹いて、今週もがんばろう！」で終了したり、そういう演出をすることもあります。

今回のこの機会を自己反省の機会とし、今後にむけ少しでもステップアップを図れればと思います。

〔編集後記〕

欧州では「熱波」、日本では「冷夏」という異常気象が続き、多くの人々の命が奪われるとともに、農作物等への被害も甚大との報道がありましたが、夏休み明けの生徒の様子はいかがでしょうか。

夏休み中に、大村はま先生と刈谷先生ご夫妻による『教えることの復権』を読みました。戦後教育の中で、「教えること」と「教え込み」を混同し、教えることを躊躇させるような空気をつくりだしたことを問題にしていました。「教えること」の本質について、再考を促されたところです。

会報第99号が無事発行の運びとなりました。先生方のご協力に心から感謝いたします。　　（大塚）